

魚を食べたくなる！ 愛媛にも行きたくなる！

愛媛から魚文化の情報を発信するフリーマガジン「Eのさかな」

2016年4月、愛媛県の魚を中心に食・自然・観光・文化などの情報を全国に紹介する標題のフリーペーパーが創刊されました。2017年現在も、愛媛県内の道の駅・スーパーなどのほか、東京・大阪といった大消費地の駅や店で無料配布されています。

タイトルにある「E」は「えひめ」のEで、キャッチフレーズは「みかんだけじゃない愛媛県。えひめは水産王国だ！！」です。発行所は、佐川印刷株式会社。愛媛県松山市にある印刷会社です。地元で思い入れのある佐川社長は、「印刷を通じて地域社会に貢献する」という経営理念のもと、近年元気のない水産業を盛り上げるために「Eのさかな」の発行を決めました。「愛媛の魅力を知らない方へ、さかなを通じて魅力を伝えていくことが、地域活性化につながる」。これが発行の目的です。発行頻度は年4回。基本的に毎回1種の魚をテーマとして取り上げ、魚の形態・生態などの概説、風土や観光、料理法、その魚を食べられるレストラン・料理屋などを掲載しています。

そもそも魚のフリーペーパーは、石川県の印刷会社が運営する「能登カルチャークラブ」が、フリーマガジン「Fのさかな」を10年くらい前から発行していました。「F」は石川県の地形を表し、さらにFish、Fresh、Friendly、Food、Family、Fight、Freeの頭文字を意味するとしています。とても長く続いており（2017年9月21日に39号が発行）、内容も充実していて質の良い紙面となっています。そのため、2011年よりARUNOアワード、日本タウン誌・フリーペーパー大賞を6年連続で受賞。高く評価されています。

こういった「Fのさかな」の活躍を見ていた佐川社長は、元々知り合いであった石川県の印刷会社社長に「愛媛でもやりたい」と相談。「協力してやりましょう！」と石川県の印刷会社社長から快諾をいただき、「Fのさかな」を参考に愛媛オリジナルの誌面を制作しました。そのような経緯から、「Eのさかな」と「Fのさかな」は姉妹紙として相互でPRに努めています。

「Eのさかな」は2017年10月までに7号を発刊しました。1号から順に、マダイ、ハモ、ブリ、スマ、カツオ、マダコ、ガザミをテーマとして取り上げました。「*一嘗三嘆」というコーナーでは魚そのものを紹介しています。愛媛県水産職OB2名の協力を得て「フリーマガジンとは思えない」という感想を読者からいただくほどの充実した内容になっています。今後も愛媛の主要な魚であるマハタ・クエ、サワラ、マアジ・マサバ、クロマグロ、ホタルジャコを紹介していく予定です。

なお、「Eのさかな」のwebサイトは次のとおりで、本紙が置かれている場所もわかります。バックナンバーも販売しておりますので、ぜひどこかでさかなの魅力がたっぷりつまっている「Eのさかな」を手にとってみてください。

<https://www.ehime-e-sakana.com/>

「*一嘗三嘆」：愛媛県松山市出身の俳人正岡子規が友人・清水則遠氏に宛てた書簡の中で、

故郷の美味しい鯛料理を「一口食べると、何度も感動するほど美味しい」と紹介する際に用いた子規オリジナルの造語。

キャプション

配置されている「Eのさかな」

「Eのさかな」1-7号